



「散歩の途中」

見えるもの、目に入るちょっとした物、  
色や形、質感、そして形と形の重なる空間。  
そこに新たな形を発見する。その時、小さな音がするようにいろいろな事が決まっていく。

今、子供の頃より遊んで来た土を使って仕事をしています。  
大切な水や空気、自然を改めて感じる手がかりになればいいなと思って。

まだまだ散歩の途中です。

植松永次

---

Gallery38では、植松永次の新作展「散歩の途中」を開催いたします。本展では、植松が今年の1月から約3ヶ月間、信楽・陶芸の森に通い制作した約20点の新作で構成されています。

1980年代に制作活動をはじめてから、一貫して土や、自然との真摯な対話の中に創造の源泉を見出してきた植松の作品には、慌ただしい日々の中で変わることない自然を見て、何かほっとした気持ちにさせられるように、懐かしく根源的な美しさを感じます。

自身の創作活動について、表現以前に土と向き合う作業であり、つくりすぎないことを大切にしている、と植松は言います。生命感あふれる泥漿の動き、土や火の痕跡が際立つひび割れと歪み、それぞれの素材の特性を存分に活かした本展の作品からも、既存の方法論や自身の意識に捉われず、あくまでも土や自然から感じたことに主眼をおいた、植松の姿勢が見受けられます。そして、そこから無数の色や形を研ぎ出すことで、ひとつとして同じものはない、独創的な作品が生まれるのではないのでしょうか。

太陽が昇り、空は青く、新しい芽が出て、花が咲き、月が昇り、星が光る。時は重なり、新たな出会いがある。植松の作品は、ごくあたりまえの風景にひそむ、大切な時間や空間を見つけるきっかけを与えてくれているような気がします。

## 作家プロフィール

- 1949年、神戸に生まれる
- 1972年、土の質を確かめる事からレリーフを創り、その後東京で焼き物を始める
- 1975年、信楽に入り陶製工場勤務の傍ら自らの制作を続ける
- 1982年、伊賀市丸柱に住居と仕事場を移し、薪と灯油併用の窯を築き、野焼きも含め作品の巾は広がる
- 1996年、滋賀県立陶芸の森に招待され制作
- 1980年代より国内・海外共に個展、グループ展多数。

Gallery 38では、2016年 個展、2017年 FRIEZE Art Fair NY 個展、2018年 Art Fair Tokyo 個展に続き、4回目の個展となります。

---

展覧会詳細：

植松永次  
「散歩の途中」

会期: 2020年6月10日(水) - 7月11日(土)  
開廊時間: 12:00 - 19:00  
火曜日は、当面の間ご予約制とさせていただきます。  
休廊日: 月、日、祝

会場: Gallery 38  
東京都渋谷区神宮前2-30-28  
tel: 03-6721-1505

※通常のスケジュールとは異なり、火曜日はご予約のみとなりますので、ご注意くださいませ。  
ご予約をご希望の場合は、前日の18時までに下記メールアドレスまでお問い合わせください。  
[contact@gallery-38.com](mailto:contact@gallery-38.com)

※オープニングレセプション及び作家在廊日はございませんのでご注意ください。

※新型コロナ感染拡大状況等により、上記日程は予告なく変更になる可能性があります。  
ご来廊の際にはウェブサイト・SNSページ等でご確認の上、お越しく下さい。

※スタッフは手洗消毒、マスク着用、体調管理を徹底して、みなさまのご来廊をお待ちしております。

【ご来廊の際のお願い】

- ・ マスク着用と、ご来廊時には手指のアルコール消毒のご協力をお願い申し上げます。
- ・ 万が一、関係者などから新型コロナウイルス発症があった場合に備え、ご来廊時にはご連絡先のご記入をお願い致します。
- ・ 発熱や咳等の症状があるお客様は、ご遠慮くださいませ。

ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

---